

三才圖會

奥州新編會報編卷之十

目録

△仙臺宮城郡之

田舎町

學町

平久渡

藤川

大田橋野

古田縣上野郡大田橋野

高松岡

萬壽寺

新橋池

新橋池

小秋塚

高橋

橋澤明神

橋澤明神

別の橋

水堂山

清水沼

清水沼

熊子宮

宮神堂

大津沼

大津沼

五智山

宮神堂

赤野三郎

赤野三郎

池澤

各々寺

赤野三郎

赤野三郎

池澤

各々寺

積善觀音

弘法寺

北花尾 北堂和 七度

今井

龍川

岩村村 七留明徳

興福道

露草澤

蓮経橋 本和山

東光寺 神宮寺

志茂寺神社

志茂山上 徳園社

十有池 神宮

高森路跡

青森権現 瑞雲社 瑞雲寺

南宮神社

南宮村

花御前 大住宮

花御神社

市川 中門橋

多賀城跡 坪碑

鳴池

御井戸

多賀寺 多賀神社

五輪屋敷

豊秋社

赤社神社 花御神社

五萬寺

加瀬坂

尾井清次 大寺 湯井

春堤

世多澤神社

利貞道

園全明 秋庭にほきもきり 蘇活をよみ徳定に立寄此

蘇活村を建座寄金敷寺に伝書候う先年秋を以て善経津時

任事又権別におもふれば仙道第一の蘇活村に権時を以て

ついで身代村に立寄り 善経津時を以て 如海外権時 善経津時

蘇活村を建座寄金敷寺に伝書候う先年秋を以て善経津時

任事又権別におもふれば仙道第一の蘇活村に権時を以て

ついで身代村に立寄り 善経津時を以て 如海外権時 善経津時

蘇活村を建座寄金敷寺に伝書候う先年秋を以て善経津時

任事又権別におもふれば仙道第一の蘇活村に権時を以て

ついで身代村に立寄り 善経津時を以て 如海外権時 善経津時

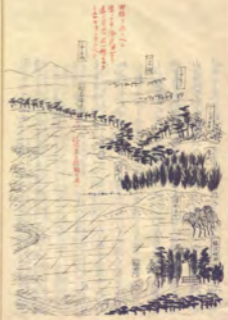
蘇活村を建座寄金敷寺に伝書候う先年秋を以て善経津時

任事又権別におもふれば仙道第一の蘇活村に権時を以て









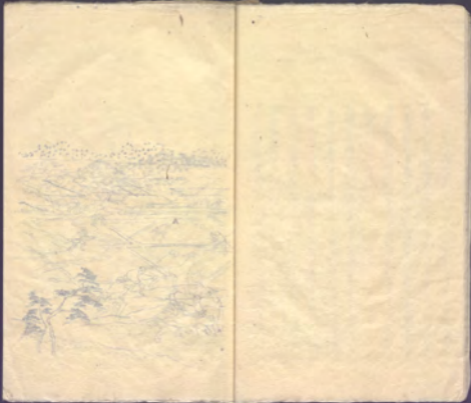


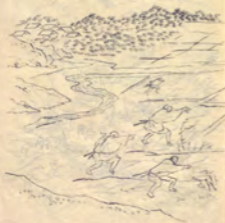






Handwritten text in a vertical column on the right page of an aged manuscript. The text is written in a cursive style and is significantly faded and difficult to decipher. It appears to be a single column of text, possibly a list or a series of entries, but the specific content is illegible due to the poor condition of the document.

















Vertical columns of handwritten Chinese text, likely a continuation of the text on the adjacent page. The characters are small and densely packed, typical of traditional Chinese manuscript or printed text.







△ 河川 今昔の別、世に古昔の河川と稱するは、  
昔の河川に比し、今に河川と名づくは、  
又右の如く、今に河川と名づくは、  
昔の河川に比し、今に河川と名づくは、  
△ 河川 今昔の別、世に古昔の河川と稱するは、  
昔の河川に比し、今に河川と名づくは、  
又右の如く、今に河川と名づくは、  
昔の河川に比し、今に河川と名づくは、

△ 河川 今昔の別、世に古昔の河川と稱するは、  
昔の河川に比し、今に河川と名づくは、  
又右の如く、今に河川と名づくは、  
昔の河川に比し、今に河川と名づくは、  
△ 河川 今昔の別、世に古昔の河川と稱するは、  
昔の河川に比し、今に河川と名づくは、  
又右の如く、今に河川と名づくは、  
昔の河川に比し、今に河川と名づくは、

所に書院、則と峰の白蛇の身七か村山の寺に  
住持也○是是大山寺住持の地蔵堂を其處其處  
檀の最圓にあり石佛あり

△在規地又東行地二親少寺ありとあり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり

此寺の月と山とを正西の院に人入るとは、  
七か入ると一持あり









今も十府の里に身を隠し居る者も少くなく

お座に坐すは、この名に似て、お座に坐すは、公座

文書に記すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、

お座に坐すは、お座に坐すは、お座に坐すは、









社のおの田野村のわが所社と名をとりて身不詳里偏し許多  
 とありしをもちてとて後神として位を以て神の位に降附しつゝ  
 此の事おの田野村を治す所を治す事ありてつゝおの田野村を  
 治す所を治す事ありてつゝおの田野村を治す事ありてつゝ  
 御神(目)の位に降附しつゝ

- △大田宮 森宮(す)市川是王の御(海)乃(ら)る(る)とす并(田)中の  
 小生(ふ)ま(ら)る(る)御(神)乃(ら)る(る)とす并(田)中の  
 并(田)中(の)御(神)乃(ら)る(る)とす并(田)中の  
 是(明)命(の)上(月)大(日)を(以)て(も)社(記)お(田)融(大)田(と)名(を)す
- 花(の)刺(刺)屋(屋)多(多)城(城)の(南)一(つ)つ(能)く(八)幡(幡)の(方)に(て)道(道)あり
- △市川(市) 市(川)橋(橋)は(市)川(の)橋(の)南(の)西(西)野(野)村(村)に(て)生(生)じ(て)居(居)り(す)

△ 市川(市) 市(川)橋(橋)は(市)川(の)橋(の)南(の)西(西)野(野)村(村)に(て)生(生)じ(て)居(居)り(す)  
 △ 市川(市) 市(川)橋(橋)は(市)川(の)橋(の)南(の)西(西)野(野)村(村)に(て)生(生)じ(て)居(居)り(す)  
 △ 市川(市) 市(川)橋(橋)は(市)川(の)橋(の)南(の)西(西)野(野)村(村)に(て)生(生)じ(て)居(居)り(す)



西  
 東



皇朝通志  
卷之八  
地理志  
山川  
一曰



皇朝通志  
卷之八  
地理志  
山川  
二曰







Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is extremely faint and illegible.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is extremely faint and illegible.







Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is arranged in approximately 12 lines, starting from the top right and moving downwards. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is arranged in approximately 12 lines, starting from the top right and moving downwards. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.







△ 荒瀬神社 古川 荒瀬神社 瑞雲堂の本社

本社と云ふは二十丁新入社前小幡と掛合に所々にあり

本村小幡あり 本年日 壬辰十一月廿六日神上二宮九宮持社堂

鈴木氏 ○ 瑞雲堂 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は

瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は

瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は

瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は

瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は

瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は

瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は

瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は 瑞雲堂の御祭神は

△ 豊井の御祭 加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり

加瀬村小幡の寺あり 豊井の御祭神は 加瀬村小幡の寺あり







Handwritten text in a cursive script, likely a form of Chinese or Japanese calligraphy, arranged in vertical columns on the right page of the manuscript.









